草凪優

Yu Kusanagi

ささやきたい。ほんとうのわたし。

講談

|著者| 草凪 優　1967年東京生まれ。日本大学芸術学部中退。シナリオライターを経て、2004年『ふしだら天使』（双葉文庫）でデビュー。2005年『桃色リクルートガール』（双葉文庫）、2010年『どうしようもない恋の唄』（祥伝社文庫）で、日本官能文庫大賞受賞。近刊に『桃月夜』（双葉文庫）、『抱きやまず』（徳間文庫）、『ガーターストッキング、売ります』（角川文庫）、『ルームシェアの夜』（祥伝社文庫）、『淫獣の宴』（幻冬舎アウトロー文庫）、『夜より深く』（新潮文庫）などがある。

ささやきたい。ほんとうのわたし。
草凪（くさなぎ） 優（ゆう）
© Yu Kusanagi 2013

講談社文庫
定価はカバーに
表示してあります

2013年9月13日第1刷発行

発行者——鈴木　哲
発行所——株式会社　講談社
東京都文京区音羽2-12-21　〒112-8001
電話 出版部（03）5395-3510
　　販売部（03）5395-5817
　　業務部（03）5395-3615
Printed in Japan

デザイン—菊地信義
本文データ制作—講談社デジタル製作部
印刷———豊国印刷株式会社
製本———株式会社大進堂

落丁本・乱丁本は購入書店名を明記のうえ、小社業務部あてにお送りください。送料は小社負担にてお取替えします。なお、この本の内容についてのお問い合わせは文庫出版部あてにお願いいたします。

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することはたとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。

ISBN978-4-06-277658-5

目次 contents

美咲 007
今日子 019
麻里 031
直子 043
由紀江 055
ゆかり 067
雅子 080
洋子 093
美紀 106
慶子 119

奈緒美 132
美佐 145
渚津子 158
真奈美 171
麻衣 184
美緒 197
真由美 210
弥生 223
千紗 236
理緒 249

講談社文庫

常州大学图书馆
藏书章

ささやきたい。まんと章のわたし。

草凪 優

講談社

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

目次 contents

美咲 007
今日子 019
麻里 031
直子 043
由紀江 055
ゆかり 067
雅子 080
洋子 093
美紀 106
慶子 119

奈緒美 132
美佐 145
渚津子 158
真奈美 171
麻衣 184
美緒 197
真由美 210
弥生 223
千紗 236
理緒 249

ささやきたい。ほんとうのわたし。

美咲（みさき）

Misaki Inoue, age29

一

似ている芸能人ですか？　たまに言われるのはアナウンサーの高島彩（たかしまあや）。タヌキ顔で、ちょっと垂れ眼で。

スリーサイズは上から八十五、六十、八十八。ブラのカップはGです。トップとアンダーに差があるから、自分で言うのもなんですが、プリンスメロンみたいに丸くて形がいいんです。色が白くて乳首もまだピンク。最近ずいぶん柔らかくなってきましたけど、まだ弾力があります。

ヒップは大きめなので、自分的にはちょっとコンプレックスかな。でも、男の人にはウケがいい。バックで求められることも多いですし……。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

今日は朝からツイてませんでした。

寝坊して遅刻しそうなところに、ゴミをどちらが出すかで夫と大喧嘩。うちは共働きで、二十九歳の同い年だから、喧嘩になるとダメなんです。どっちも譲らないで、とことん意地を張りあってしまう。

時間ぎりぎりまで口論してから、家を飛びだして走りました。でも、駅に着いたら事故でダイヤが乱れてて、その時点で遅刻確定。おまけに、やっと来た電車はギュウギュウづめの満員状態。梅雨の蒸し暑いときなので、熱気と湿気でムンムンしてて。

トドメを刺すように、乗ったら乗ったで痴漢です。嫌な予感がしてたんですが、お尻を撫でまわされちゃった。手のひらだったら声をあげてましたよ、もちろん。でも、触れていたのは手の甲。車内はギュウギュウづめでしたから、声をあげて自意識過剰だと思われるのもシャクじゃないですか。とはいえ、目的地までの乗車時間は二十分……。

十分が我慢の限界で、途中下車しました。

ヘトヘトの汗まみれです。

もう会社は半休することにして、とにかくシャワーが浴びたかった。どうしたものかと途方に暮れているときでした。

「あれ、美咲くんじゃないか？」
後ろから声をかけられて振り返ると、お相撲さんのような巨漢の男が、ハンカチで額の汗を拭いながら、のっしのっしとこちらに歩いてきます。
「島田課長！」
三年前まで勤めていた保険会社の上司でした。当時から太ってましたけど、またひとまわり大きくなったようで、わたしの心は和みました。太めの男の人、けっこう好きなんです。だって、見ているだけで気持ちが大らかになるじゃないですか。セックスアピールもありますよ。ぷにぷにでふかふかの体に抱かれてみたいっていう女の人、意外と多いと思います。
とはいえ、直接の上司でしたから色目を使ったことなんかはありません。四十代の妻帯者なので、なおさらです。
「キミ、このあたりで働いてるの？」
訊ねられ、わたしは苦笑しました。
「満員電車に疲れてしまって、途中下車です。今日は半休します」
「ハハッ、僕と同じだね」
島田さんは絞れば水がしたたりそうなハンカチでしつこく額の汗を拭っています。

「暑いし押されるし汗はとまらないし、こんなんじゃ仕事にならないから、シャワーを浴びてからタクシーで出社することにしたんだ」
「ええっ、シャワー？」
わたしは声を跳ねあげました。
「このあたりに、スーパー銭湯かなにかあるんですか？」
「いや、ラブホ。俺、けっこうひとりで利用するんだよね、休憩に。この体だとネットカフェの個室とかきついんだよ。その点、ラブホならシャワーにバスローブにでっかいベッド、ネット環境が整ってるところもあるから、至れり尽くせりってわけ」
島田さんは額の汗を拭いながら、どうだとばかりに胸を張りました。

二

女って、意外とあっけなく浮気をしちゃうものなんです。タイミングが合って、ちょっとした言い訳が用意されていれば、びっくりするくらい簡単に誘いに乗っちゃうときがある。
ラブホテルって数えるほどしか入ったことがありませんでしたけど、その部屋は落

ち着いた雰囲気で清潔感もあり、わたしは安堵の胸を撫で下ろしました。
「じゃあ、レディファーストで美咲くんからシャワーをどうぞ」
島田さんに言われ、
「そんな……」
わたしはあわてて首を横に振りました。
「お金払っていただいたんですから、わたしはあとでけっこうです。島田さん、すごい汗ですし」
「そう？　じゃあ、お言葉に甘えて……」
島田さんはスーツのジャケットを脱いでハンガーに掛けると、のっしのっしとバスルームに向かっていきました。
わたしはベッドに腰かけ、ふうっとひとつ息をつきました。人妻の身で、ラブホテルに入った罪悪感はありません。あくまでシャワーを浴びるためだし、まだ朝の九時過ぎです。エッチな気分になんてなるはずがない。
でも、湯あがりの島田さんのためにクーラーの温度をさげておこうと、ベッドにあがってコントロールパネルを操作したとき、枕元に置かれたスキンが眼に入って、鼓動が乱れてしまいました。

そういえば最近使ってません。共働きだと生活のすれ違いが多くなります。家事の分担で喧嘩が絶えず、まだ結婚三年目なのにイチャイチャするようなムードから遠ざかってばかり。

ベッドから降りて振り返ると大きな鏡がありました。わたしは童顔で眼が大きく、実年齢より若く見えます。

いえ、そのはずだったんですが、鏡に映ったわたしは、少しやつれていました。満員電車でヘトヘトになって、化粧は汗で流されている。シルキーな白い肌がなによりも自慢だったのに、張りや潤(うるお)いがちょっと失われている気がします。

女として満たされてないからかしら……鏡とにらめっこをしていると、バスルームから島田さんが戻ってきました。

「いやー、すっきりした」

腰にバスタオルを巻いただけで、上半身裸です。わたしはびっくりしましたが、お相撲さんのようにつやつやと輝くもち肌がまぶしかった。ともすれば女のわたしより肌が白そうで、ジェラシーさえこみあげてきます。

「汗が引くまでこの格好で失礼するよ。どうぞ、美咲くんもシャワー浴びて」

「……はい」

わたしは目のやり場に困りながら、島田さんの横をすり抜けてバスルームに向かおうとしました。もちろん、見たいという気持ちがあるから、目のやり場に困るんです。シャボンの香りが漂う島田さんの裸身は、ドキドキするほどセクシーでした。

「あっ……」

すれ違うとき、腕を取られました。島田さんの目つきが変わっていました。温厚そうな細い目が野獣のように見開かれて、瞳が妖(あや)しく輝いている。

「いい匂いだね、美咲くんの汗の匂い」

「えっ、やだ……」

わたしは驚いて腕の匂いを嗅(か)ぎました。

「自分で嗅いでもわからないよ、男の本能を揺さぶるフェロモンなんだから」

「フェロモン？」

「そうだよ、女のフェロモンは、男にだけわかるんだ。シャワーで流す前に、もっと嗅がせてくれよ。俺、たまらなくなってきちゃったよ」

「ああんっ！」

抱きしめられ、わたしは自分の愚かさを呪いました。最初はそんなつもりじゃなかったとしても、密室で女とふたりきりになればムラムラしてくるのが男なのです。結

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com